

函館市の歴史

1454 (享徳 3) 年 河野政通がウスケシに館を築く。この館にちなみ、この地を箱館(「箱の家」と呼んだとされています。

1793 (寛政 5) 年 ロシアの公使ラクスマンが箱館に入港。

1799 (寛政 11) 年 高田屋嘉兵衛、択捉航路を開設。翌年漁場を開く。

1802 (享和 2) 年 幕府が蝦夷地奉行所を新設。のち箱館奉行所に改称。

1854 (安政元) 年 幕府がアメリカ提督ペリーと日米和親条約を締結。アメリカ艦隊 5 隻が箱館港調査のため入港。

1855 (安政 2) 年 箱館港が、外国船への食料・水の供給港として開港。

1858 (安政 5) 年 幕府が米国、オランダ、ロシア、英国、フランスの 5 カ国と修好通商条約を締結。

1859 (安政 6) 年 箱館、横浜、長崎を自由貿易港として指定。箱館港は 6 月 2 日(新暦 7 月 1 日)に開港。

1864 (元治元) 年 星形要塞である五稜郭の建設が完了。

1869 (明治 2) 年 五稜郭に立てこもっていた旧幕府軍が新政府軍に降伏。蝦夷を北海道に改称。

1922 (大正 11) 年 市制施行。第 1 回函館市会開く。

1929 (昭和 4) 年 駒ヶ岳大噴火、付近の被害甚大。

1934 (昭和 9) 年 函館大火。3 月 21 日住吉町から出火、死者 2166 人。

1935 (昭和 10) 年 7 月 1 日を開港記念日とし第 1 回港まつりを開催。

1939 (昭和 14) 年 湯川町と合併。

1945 (昭和 20) 年 7 月 14 日・15 日、米軍が函館を空襲。被害甚大。

1946 (昭和 21) 年 最初の市長公選(坂本森一氏当選)。

1952 (昭和 27) 年 北洋漁業サケ・マス漁再開、戦後最初の出漁。

1954 (昭和 29) 年 台風により「洞爺丸」ほか 4 隻の青函連絡船沈没。

1966 (昭和 41) 年 銭亀沢村と合併。

1973 (昭和 48) 年 亀田市と合併。

1977 (昭和 52) 年 函館市民憲章制定。

1982 (昭和 57) 年 市の新庁舎完成。カナダのハリファックス市と姉妹都市提携。

1988 (昭和 63) 年 J R 津軽海峡線開業、青函連絡船が終航。青函トンネル開通記念博覧会開催。

1989 (平成元) 年 青森市とツインシティ提携。はまなす国体開催。

1992 (平成 4) 年 ロシアのウラジオストク市、オーストラリアのレイク・マコーリー市と姉妹都市提携。

1993 (平成 5) 年 北海道南西沖地震発生。

1997 (平成 9) 年 ロシアのユジノサハリンスク市と姉妹都市提携。

2000 (平成 12) 年 公立はこだて未来大学開学。新市立函館病院開院。特例市に移行。

2001 (平成 13) 年 中国の天津市と友好交流都市提携。

2003 (平成 15) 年 総合保健センター、新函館競輪場開設。J R 函館駅新駅舎オープン。

2004 (平成 16) 年 戸井町・恵山町・榎法華村・南茅部町と合併。

2005 (平成 17) 年 北海道新幹線建設着工。中核市に移行。

2007 (平成 19) 年 地域交流まちづくりセンター、臨海研究所開館。「中空土偶」が国宝に指定。

2010 (平成 22) 年 箱館奉行所開館。

2011 (平成 23) 年 東日本大震災発生。函館市自治基本条例施行。韓国の高陽市と姉妹都市提携。縄文文化交流センター開館。

2012 (平成 24) 年 はこだて療育・自立支援センター開設。

2014 (平成 26) 年 国際水産・海洋総合研究センターオープン。北海道新幹線駅名「新函館北斗」に決定。

2015 (平成 27) 年 函館アリーナオープン

2016 (平成 28) 年 北海道新幹線開業。はこだてみらい館・はこだてキッズプラザオープン。

2017 (平成 29) 年 函館コミュニティプラザオープン。函館市を含む北前船寄港地 11 自治体のストーリーが日本遺産に認定。

2018 (平成 30) 年 北海道胆振東部地震発生。

2019 (令和元) 年 棒二森屋閉店。

2020 (令和 2) 年 亀田交流プラザオープン。

2021 (令和 3) 年 函館新外環状道路「赤川IC~函館空港IC」間開通。「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録。

2022 (令和 4) 年 市制施行 100 周年記念式典挙行。

2023 (令和 5) 年 青函連絡船記念館摩周丸がふね遺産に認定。

2024 (令和 6) 年 動物愛護管理センター開設。



箱館奉行所庁舎



第 1 回港まつり



北洋漁業の出漁見送り風景



3 町 1 村との合併協定調印式



新幹線の車両の陸揚げ

函館市の概要

地名の由来

室町時代の享徳 3 年(1454 年)、津軽の豪族 河野政通が宇須岸(ウスケシ:アイヌ語で湾の端の意)と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることになりました。この館跡は今の基坂を登ったところです。

明治 2 年(1869 年)、蝦夷が北海道となり、箱館も函館と改められました。

地勢

函館市は、渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接しています。

データ

人口 234,530人(令和7年3月末現在)

世帯数 137,669世帯(令和7年3月末現在)

面積 677.87km²(令和7年1月1日現在)

位置 東経140度44分 北緯41度46分(市役所)

気候 3つの海に囲まれ対馬暖流の影響を受ける函館は、海洋性気候のおかげで、北海道としては降雪量が少なく比較的穏やかな気候です。

市の木・花・鳥・魚

市の木 おんこ(いちい)(昭和50年4月1日制定)

市の花 つつじ(やまつつじ)(昭和50年4月1日制定)

市の鳥 ヤマガラ(昭和62年5月10日制定)

市の魚 イカ(平成元年8月1日制定)

市章・市旗、函館ロゴマーク

函館市章(昭和10年7月13日制定)

天然の良港函館港は、津軽海峡に突出した岬の角に抱かれた形をしており、海水が深く湾入して巴状になっているところから、俗に「巴の港」といわれています。

函館市旗(昭和43年6月11日制定)

明治初期に市の象徴として用いられていた五稜星と現在の市章を合わせ現代的に表現したもので、地色の青は空と海洋、五稜の赤は歴史と市民の意欲、巴と五稜を囲む白は未来への飛躍を表しています。

函館ロゴマーク(平成25年7月作成)

函館のPRやイメージアップを図るために作成しました。使用する場合は使用承認の手続きが必要です。

函館市民憲章(昭和52年5月3日制定)

前文 わたくしたちは、北海道の文化発祥の地、函館に住む市民です。

山と海にかこまれた美しい自然を誇り、すぐれた市民性をはぐくんできた函館を、いっそう住みよい都市に発展させるため、わたくしたち市民とまちの理想像をかかげ、ここに市民憲章を定めます。

- 本文
- 1 真心あふれる函館市民、あたたかいまち
 - 1 健康で働く函館市民、にぎわうまち
 - 1 文化を誇る函館市民、はぐくむまち
 - 1 自然を生かす函館市民、きれいなまち
 - 1 郷土を愛する函館市民、のびゆくまち



気温(令和6年)

| | |
|-------|---------|
| 年平均気温 | 11.0°C |
| 最高気温 | 32.2°C |
| 最低気温 | -10.4°C |



おんこ



つつじ



ヤマガラ



イカ



市章



市旗



HAKODATE

函館ロゴマーク

都市宣言

- ・安全都市宣言（昭和 36 年 3 月 6 日制定）
- ・核兵器廃絶平和都市宣言（昭和 59 年 8 月 6 日制定）
- ・国際観光都市宣言（平成元年 8 月 1 日制定）
- ・スポーツ健康都市宣言（平成 4 年 10 月 10 日制定）
- ・いきいき長寿都市宣言（平成 6 年 12 月 10 日制定）
- ・ゼロカーボンシティ宣言（令和 4 年 2 月 25 日制定）

姉妹・友好交流都市

- ハリファックス市（カナダ ノバスコシア州、昭和 57 年 11 月 25 日提携）
- ウラジオストク市（ロシア連邦 沿海地方、平成 4 年 7 月 28 日提携）
- レイク・マコーリー市（オーストラリア ニュー・サウス・ウェールズ州、平成 4 年 7 月 31 日提携）
- ユジノサハリンスク市（ロシア連邦 サハリン州、平成 9 年 9 月 27 日提携）
- 天津市（中華人民共和国、平成 13 年 10 月 18 日友好交流都市提携）
- 高陽市（大韓民国、平成 23 年 8 月 1 日提携）

ツインシティ

- 青森市（青森県、平成元年 3 月 13 日提携）

函館市基本構想

2026年度を目標年次として定めた「函館市基本構想」では、めざす将来像を「北のクロスロード HAKODATE ～ともに始める 未来を拓く～」と掲げています。将来像を実現するための取組の方向性として、2つの重点プロジェクトと5つの基本目標を掲げ、体系的にまちづくりに取り組むこととしています。

2つの重点プロジェクト 「経済再生プロジェクト」

北海道新幹線開業を契機とした、新たな広域観光圏・経済圏を構築し、交流人口の拡大や、国内外への販路拡大のほか、学術研究機関の集積や交通の要衝である優位性を活かした、企業誘致や新産業の創出などに取り組み、地域経済の活性化を図ります。

「魅力向上プロジェクト」
本市の強みである都市としてのブランド力をさらに強固なものとするため、既存の地域資源に磨きをかけ、新たな魅力を発掘・創出するとともに、こうした魅力を市民生活や歴史的・文化的背景により体系づけ、発信することで、多面的な魅力を持つ新たな資源に進化させる取組を進めます。

5つの基本目標

- ・まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます
- ・子ども・若者を育み希望を将来へつなぎます
- ・いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします
- ・日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します
- ・持続可能な都市の基盤を構築します

函館国際水産・海洋都市構想

函館には3つの異なった海流が流れ込み、地理的・自然的条件に恵まれています。

このポテンシャルや様々な資源を活用し、地域の産学官が一丸となって、マリンサイエンスの研究分野で世界をリードし、その成果や生み出された技術などによって、地域を活性化しようと平成 15 年 3 月に策定されたのが「函館国際水産・海洋都市構想」です。

これまでにガゴメコンブをはじめとした海藻に含まれる成分に着目した新商品の開発や、イカの鮮度保存技術の開発など様々な成果を上げています。



- 1 ハリファックス
- 2 ウラジオストク
- 3 レイク・マコーリー
- 4 ユジノサハリンスク
- 5 天津（てんしん）
- 6 高陽（こやん）



青函プロモーション映像
青函ツインシティ提携25周年を記念し、青森・函館両市民 10 人の笑顔にスポットをあて、「訪れる人々を笑顔でお迎えしたい」、そして、「来たい街であり続けたい」というメッセージを青森・函館から多くの皆さんに伝えるために制作しました。映像は youtube でご覧いただけます。
(www.youtube.com/watch?v=-accvxBvmo)



国際水産・海洋総合研究センター
入居型の貸研究施設として、学術試験研究機関や民間企業が一堂に入居できる研究室を備えているほか、隣接する岸壁には調査研究船が直接接岸でき、また、函館港外から直接採取した海水を水槽実験に使用することができるなど、水産・海洋分野の研究開発支援や産学官連携を促進するための施設です。さらに、来館者が自由に見学できる大型の実験水槽や函館港が一望できる展望ロビー、海水を使用できる実習室や、学会の開催などを想定した会議室なども備えており、函館国際水産・海洋都市構想のシンボルとしての役割を担っています。

| 年齢別人口 | | | | |
|--------------------|----------------|----------------|----------------|--------------|
| | (人) | | | |
| 区分 | 男性 | 女性 | 合計 | (%) |
| 年少人口 (0～14歳) | 10,139 | 9,852 | 19,991 | 8.5 |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 61,863 | 64,881 | 126,744 | 54.0 |
| 老年人口 (65歳～) | 34,652 | 53,143 | 87,795 | 37.4 |
| 総数 | 108,374 | 129,839 | 238,213 | 100.0 |

※外国人を含む（住民基本台帳、令和7年3月末日現在）

| 人口動態 | | | |
|-----------|----------------|----------------|----------------|
| | (人) | | |
| 区分 | 令和4(2022)年 | 令和5(2023)年 | 令和6(2024)年 |
| 出生 | 1,083 | 954 | 904 |
| 死亡 | 4,315 | 4,498 | 4,400 |
| 増減 | △ 3,232 | △ 3,544 | △ 3,496 |
| 転入 | 8,374 | 8,055 | 8,076 |
| 転出 | 8,937 | 8,799 | 8,383 |
| 増減 | △ 563 | △ 744 | △ 307 |
| その他増減 | 120 | 75 | 100 |
| 増減 | △ 3,675 | △ 4,213 | △ 3,703 |

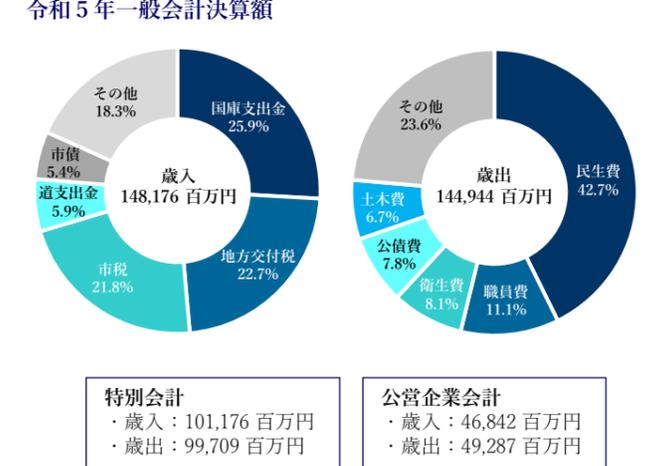
事業所

| (事業所、人) | | | |
|---------------------|-------------------|---------------|----------------|
| | 産業 | 事業所数 | 従業者数 |
| | 総数 | 11,362 | 105,260 |
| 第1次 | A1 農業 | 11 | 78 |
| | A2 林業 | 10 | 73 |
| | B 漁業 | 29 | 369 |
| 第2次 | C 鉱業、採石業、砂利採取業 | 2 | 12 |
| | D 建設業 | 1,091 | 8,333 |
| | E 製造業 | 500 | 8,295 |
| | F 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9 | 329 |
| | G 情報通信業 | 113 | 1,875 |
| 第3次 | H 運輸業、郵便業 | 258 | 6,280 |
| | I 卸売業、小売業 | 2,909 | 22,940 |
| | J 金融業、保険業 | 242 | 2,958 |
| | K 不動産業、物品賃貸業 | 798 | 2,716 |
| | L 学術研究、専門・技術サービス業 | 433 | 1,873 |
| | M 宿泊業、飲食サービス業 | 1,576 | 11,801 |
| | N 生活関連サービス業、娯楽業 | 1,143 | 4,592 |
| | O 教育、学習支援業 | 334 | 3,532 |
| P 医療、福祉 | 1,014 | 19,196 | |
| Q 複合サービス事業 | 93 | 1,170 | |
| R サービス業（他に分類されないもの） | 797 | 8,838 | |
| S 公務（ほかに分類されるものを除く） | … | … | |

※統計数値は函館市総務部総務課「函館市ポケット統計-2025-」より引用

| 観光入込客数 | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | (千人) | | | | |
| 年度 | 総数 | 道外 | 道内 | 日帰り・通過 | 宿泊 |
| 2020 | 3,103 | 1,596 | 1,507 | 1,503 | 1,600 |
| 2021 | 3,462 | 1,606 | 1,856 | 1,810 | 1,652 |
| 2022 | 4,547 | 2,584 | 1,964 | 1,851 | 2,697 |
| 2023 | 5,286 | 3,194 | 2,092 | 2,158 | 3,128 |

行財政



| | |
|------------|---|
| 市議会議員定数 | 27人（現員27人） 令和7年4月18日 |
| 市職員数 | 3,659人（男 2,141人、女 1,518人） 令和6年5月1日現在 |
| 選挙人名簿登録数 | 208,546人 令和7年3月1日 |
| 市政に関する相談件数 | 2,487件 令和5年度 |
| 情報公開請求件数 | 1,320件 令和5年度 |

函館市の1日

| | |
|---------------------|---------------------|
| 出生（令和5年） 2, 6人 | 死亡（令和5年） 1 2, 2人 |
| 結婚（令和5年） 2, 0組 | 離婚（令和5年） 1, 0組 |
| 転入（令和6年） 2 2, 1人 | 転出（令和6年） 2 2, 9人 |

函館市の市民生活

| | |
|-----------------------|------------------------------------|
| 人口密度 | 348.9人/km ² 令和6年12月末 |
| 世帯人員 | 1.71人/世帯 令和6年12月末 |
| 水洗化普及率 (処理区域人口普及率) | 91.0% 令和5年度末 |